

令和 4 年 5 月 27 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K10232

研究課題名（和文）看護シミュレーション教育ファシリテータの自信を育てるプログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a program to foster confidence in nursing simulation education facilitators

研究代表者

内海 桃絵（UTSUMI, Momoe）

大阪大学・医学系研究科・准教授

研究者番号：40585973

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：看護シミュレーション教育のファシリテータの成長のプロセスについてのインタビューから、対象者は機会を逃さずに実践を繰り返し、指導者から継続的な支援を受け、仲間との内省を行っていた。それにより、ファシリテータ役割を概念化し、さらにファシリテーションスキルを日常看護業務における新人看護師指導に役立てるなど応用もしていた。ファシリテータ支援には、基本的なスキルを教授するととお互いに支えあえるコミュニティの形成が必要であった。また、ファシリテータが研修のゴール達成に向けてデブリーフィング場面で活用しているのは、場づくりのスキル、対話と学びを促進するスキル、構成するスキルであった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

シミュレーション教育は、看護師、看護学生だけでなく、医師や薬剤師など医療専門職の知識・技術・態度を含めた実践能力を向上させる手法であり、今般のコロナ禍による医療現場の混乱からシミュレーション教育の必要性はますます高まっている。シミュレーションベースの学習体験において、ファシリテータによるデブリーフィングは不可欠な要素である。本研究では、ファシリテータとしての成長に必要な支援とデブリーフィングスキルを明らかにした。これらの知見はより効果的な教育プログラム作成に寄与するものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：We interviewed facilitators of nursing simulation education about their process of growth. The subjects did not miss opportunities to repeat the practice, received continuous support from their instructors, and engaged in reflection with their peers. They conceptualized the facilitator role and applied their facilitation skills to teaching new nurses in their daily nursing work. It was suggested that ongoing involvement with a mentor and forming a mutually supportive community are necessary to support facilitators. The study also revealed that experienced facilitators utilize the following skills in debriefing situations: placemaking skills, facilitating dialogue and learning, and structuring skills.

研究分野：基礎看護学領域

キーワード：シミュレーション ファシリテータ ファシリテーションスキル 成長過程 成長過程

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 医療を取り巻く環境の変化と看護教育について

卒業直後の看護技術能力と臨床が期待している能力の乖離の指摘から、卒後臨床研修が努力義務(厚生労働省, 2010)となり、技術研修の拡充が図られている。2017年10月に示された看護学教育モデル・コア・カリキュラムでは、アクティブラーニング、シミュレーション教育、臨地実習に関する方略や評価手法、これに関する教員へのファカルティ・ディベロップメントの工夫と方法論の確立など看護実践能力を強化する取り組みが求められている(文部科学省, 2017)。

(2) 質の高い看護師育成のためのシミュレーション教育

看護学生の時から臨床に即した事例やハイリスク症例のケアについてシミュレーション教育を通して学ぶことは、臨床へのスムーズな移行を促す。米国看護師団体 NCSBN (National Council of State Boards of Nursing) は、看護学部教育における多施設共同無作為比較試験の結果、臨床実習時間の25~50%をシミュレーション教育に置き換えても、看護学の知識、看護師国家試験の初回受験合格率、看護師として就職してから6ヶ月までの職場での評価に有意差を認めなかったと報告した。このことは従来の教育手法と比較してシミュレーション教育の非劣性を示唆しており、看護系大学の増加による臨地実習受け入れ困難、医療安全や患者意識の高まりによる経験可能な処置の制限などに対する問題解決への糸口になる可能性がある。

(3) ファシリテーターの自信を育てるプログラムの必要性

シミュレーション教育は、単なる知識や技能の伝達ではなく、判断力や実践力を養うための学習機会である。そのため、常に学習者を主体として、その気づきやパフォーマンスの向上を支援するファシリテーターの存在が欠かせない。シミュレーション教育の場面ではファシリテーターの想定を超えた出来事もしばしば発生する。そのためファシリテーターは、学習者の思考・行動・感情の変化を予測、観察し、的確な支援を提供することが求められる。しかし、学習者を前に臨機応変に対応することは難しく、自信を持てずにファシリテーター役に抵抗を感じる人は多い。ファシリテーションを行う際のコツ、ファシリテーターに求められるスキルは成書にもまとめられ、感覚的に理解されているが、科学的検証は十分に行われていない。

2. 研究の目的

(1) シミュレーション教育ファシリテーターの成長のプロセスを明らかにする

(2) ファシリテーターとして活躍している人が、シミュレーション教育で獲得している具体的なスキルを記述する

(3)(1)(2)の結果からファシリテーターの自信を育てる教育プログラムへの示唆を得る

3. 研究の方法

2020年8月~9月にオンラインインタビューを行った。研究対象者は、看護シミュレーション教育に取り組んでいる看護師を便宜的サンプリングによりリクルートした。対象者の選定条件は、看護シミュレーション教育のファシリテーターを実践している人とし、除外基準はファシリテーターを2年以上やっていない人とした。

分析には、質的内容分析の帰納的アプローチを用いた。録音データを逐語録に起こし、それを読み込み、データの解釈を行った。分析の視点に合わせて、データの意味内容を損なわないようにコードをつけた。それぞれのコードの類似性に着目し、同じ内容を語っているものは1つのコードにまとめカテゴリー化を行った。なお、手順ごとにシミュレーション教育のファシリテーター、看護教育の実践、研究の経験を有する著者らで検討を繰り返しながら分析を進め、解釈の信頼性が担保されるように努めた。

大阪大学医学部附属病院倫理審査委員会の承認(承認番号19455-2)を得て実施した。

4. 研究成果

(1) 対象者の属性

研究参加者は12名で、全員女性であった。対象者の年齢は、60歳代2名、50歳代6名、40歳代2名、30歳代2名であった。看護師平均経験年数は 25.2 ± 9.8 年、ファシリテーター平均経験年数は 7.9 ± 4.0 年であった。平均面接時間は 50.3 ± 6.5 分であった(表1)。また、対象者の所属は、大学附属病院4名、その他の医療施設4名、看護系大学2名、看護専門学校1名、所属なし1名であった。

(2) 看護シミュレーション教育におけるファシリテーターの成長プロセス

ファシリテーターへのインタビューの結果、30のテーマから9のサブカテゴリー、4のカテゴリーが得られた。4つのカテゴリーは、【仲間との実践と振り返り】【自分らしいファシリテーター役割の実践】【自律的なシミュレーション教育拡充に向けた取り組み】【ファシリテーター役

割の内面化と応用】であった。(表1)

シミュレーション教育ファシリテーターの成長プロセスからは、実践を繰り返すこと、指導者からの継続的な指導と仲間との内省により、ファシリテーター役割を概念化していることが明らかとなった。また、身に着けたファシリテーションスキルを日常看護業務における新人看護師指導に役立てるなど応用もしていた。ファシリテーター支援には、継続的なメンターとの関わりやお互いに支えあえるコミュニティーの形成が必要であることが示唆された。

表1 ファシリテーターの成長のプロセス

カテゴリー	サブカテゴリー	テーマ
仲間との実践と振り返り	繰り返す実践とリフレクション	繰り返し経験することで余裕が生まれる
		自分の実践を振り返っている
		学習者からフィードバックを受ける
指導者や仲間との出会いによる研鑽	指導者や仲間との出会いによる研鑽	失敗を分析して次に生かす
		指導者から新たな気づきを得る
		仲間の存在がモチベーションになる
実践からの自身の状況把握	実践からの自身の状況把握	人のファシリテーションの様子を見る
		研修に参加し知識や技術を学ぶ
		自己評価が厳しい
自分らしいファシリテーター役割の実践	ファシリテーターにとって大切だと思う要素の習得	成長を感じた瞬間がある
		学習者の反応を自分の評価指標にしている
		学習者が主役であると考えている
理論に基づいたファシリテーション技術の活用	理論に基づいたファシリテーション技術の活用	学習の目標をいつも明確にしている
		学習者の特徴をつかむ
		自分なりのやり方を身に着ける
教材開発と環境づくり	教材開発と環境づくり	安心できる環境をつくる
		学習者の反応を待ち対応する
		学習者の発言を促す
ファシリテーター仲間に対するフォロー	ファシリテーター仲間に対するフォロー	フィードバックにより学習を深める
		学習者の反応を予測する
		ニーズを捉えたシナリオを作る
シミュレーション教育拡充に向けた取り組み	シミュレーション教育拡充に向けた取り組み	シミュレーション教育の場を開拓する
		組織や上司の理解が必要である
		ファシリテーター候補に声をかける
ファシリテーター役割の内面化と応用	ファシリテーターに対するやりがい	ファシリテーターの役割に魅力を感じる
		シミュレーション教育に可能性を感じる
		学習者の反応は毎回異なる
ファシリテーションスキルの応用	ファシリテーションスキルの応用	人との関わり方を学んだことが役立っている
		ファシリテーションスキルを他の場面で活用する

(3) ファシリテーターが実践を通して獲得したスキル

ファシリテーション教育は準備から実施、評価まで幅広いが、ここではデブリーフィングの場面で獲得したスキルについて分析結果を記載する。ファシリテーターらは、デブリーフィングの場面において、学習者の体験を意味づけ学びにつなげることをゴールとし、場づくりのスキル、対話と学びを促進するスキル、構成するスキルを活用していた。(表3~5)

場づくりのスキルと対話と学びを促進するスキルを通して、学習者が間違いを恐れずに安心して発言できる雰囲気づくりに取り組んでいた。これは、無知・無能・邪魔・否定的と思われる不安が払しょくされる関わり方であり、心理的安全性が確保されている様子がうかがえた。日ごろの経験を引き出すような問いを投げかけ、互いの経験を共有しながら進めていた。このことによって、経験の浅い学習者でも仲間の経験から学べるピアラーニングの促進につながっている様子が推察された。教材を読み込み研修のねらいを理解することで、何を学習者が学べると良い

かが明確になり、ブレない軸をもって研修に臨めている姿があった。これらのスキルを修得できるファシリテーター育成プログラムを構築することで、ファシリテーターのデブリーフィング力を高めることが期待される。

表3 場づくりのスキル

獲得したスキル	具体的な関わり方
学習者の理解	グループワークやリーダーシップを取ることにに対して苦手意識がある人がいることを配慮して関わる
学習者の観察と 指名順の決定	表情・声のトーン・発言内容・研修に取り組む姿勢などを観察する、苦手意識のある人は最初に指名をしない、苦手意識がある人は慣れてきた頃に指名する
学習者が中心となるような関わり方	学習者だけの時間を設ける ペアワークを取り入れる、しゃべり過ぎない 学習者から引き出す、ティーチングにしない 正解を言わない、待つ
自信を持たせる関わり方	ほめる、承認する、強みを承認する、強みを伝える、けなさない、易しく、良い点は具体的に伝える

表4 対話の学びを促進するスキル

獲得したスキル	具体的な関わり方
発言しやすくなる 問いの投げかけ	難しい質問は避ける、誰もが答えやすい質問をする、学習者の反応に合わせて質問する、学習者の反応を見て問いかけを変える、属性を配慮した質問をする、思い出せるきっかけをつくる、過去の事例を想起させ考え易くする
発言をつなげて 促進する会話術	グループサイズを調整する、相手に合わせて使う言葉を変える、言い切らないで発言をつなぐ、話していない人にも話を振る、他の人が経験しないような事例を共有して学びを促進する、受講者の知識を意見交換に活かす、学習者の意見を吸い上げまとめる、ファシリテーターの失敗談を伝えて間違っただけの発言もフォローする
行き詰まったときの介入	ヒントを与える、アプローチの角度を変える
印象付けて 学びにつなげる伝え方	学習者にとって一番伝わる方法を模索する、キーワードで話す、まじめな表情に切り替える、声のトーンを変える、大事なことは繰り返す、手を動かして印象づける
対話促進ツールの活用	事前課題や事後資料、教科書の活用、ビデオカメラを活用して動画によるデブリーフィングを行う ホワイトボードを活用して見える化と思考の整理を行う

表5 構成するスキル

獲得したスキル	具体的な関わり方
時間管理と臨機応変な対応	時間管理を徹底する、他のグループの進行状況を気にかけてながら進める、何を学んでもらえると良いかを捉えて臨機応変に対応する
自己理解と自己開示	不安なことは表出して他のファシリテーターに助けをもらえるようにする、自身の技量を見極めて早めに SOS を出す、適宜助けを求める、2人以上で対応する
研修や教材の理解	ある程度のポイントが押さえられれば OK と捉える 全てを伝えることが指導ではないと捉えて関わる

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 越智悠介, 内海桃絵	4. 巻 26
2. 論文標題 中堅男性看護師のキャリアアップにおける経験についてのインタビュー調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪大学看護学雑誌	6. 最初と最後の頁 20-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 内海桃絵	4. 巻 29
2. 論文標題 メンタリングとは何か 個人の成長を促進させ、チームを活性化させるために	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 看護管理	6. 最初と最後の頁 316-322
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 内海桃絵	4. 巻 29
2. 論文標題 メンタリングのプロセスと必要なスキル	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 看護管理	6. 最初と最後の頁 323-329
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 内海桃絵, 内藤知佐子, 任和子, 谷口初美	4. 巻 10
2. 論文標題 看護シミュレーション教育におけるファシリテーターの成長プロセス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本シミュレーション医療教育学会雑誌	6. 最初と最後の頁 24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mikkonen K, Utsumi M, Tuomikoski AM, Tomietto M, Kaucic BM, Riklikiene O, Vizcaya-Moreno F, Nakaoka A, Yamakawa M, Inoue M, Yayama S, Perez-Canaveras R, Filej B, Kaariainen M.	4. 巻 19
2. 論文標題 Mentoring of nursing students A comparative study of Japan and five European countries	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japan Journal of Nursing Science	6. 最初と最後の頁 e12461
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jjns.12461	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計8件(うち招待講演 0件/うち国際学会 4件)

1. 発表者名 Takeshita Y, Utsumi M
2. 発表標題 Literature review on the utilization and the education effect of fully immersive virtual reality in nursing education.
3. 学会等名 The 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Osako H, Utsumi M
2. 発表標題 Describing the Challenges Faced by Nurses During the Insertion of Peripherally Inserted Central Catheter: Semi-structured Interviews with Nurses in Japanese Hospitals.
3. 学会等名 The 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内海桃絵, 竹下悠子, 大迫ひとみ, 太田悦子, 長田麻友子, 鍋谷佳子, 吉田寿雄, 朝野和典
2. 発表標題 手指衛生教育のためのバーチャルリアリティ(VR)教材の開発
3. 学会等名 第35回日本環境感染学会総会・学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木村稜子, 内海桃絵
2. 発表標題 看護職の学校における性感染症予防教育への関わりについての文献検討
3. 学会等名 第35回日本環境感染学会総会・学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Naito C, Taniguchi H, Utsumi M, Nin K
2. 発表標題 Brushing up simulation teaching skills
3. 学会等名 8th Hong Kong International Nursing Forum cum 2018 ICOWHI Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内藤知佐子, 谷口初美, 内海桃絵, 任和子
2. 発表標題 シミュレーション教育におけるファシリテーターが抱える困難の実態
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Utsumi M, Naitou C, Ikuji A, Osako H, Okamori K, Tanaka A, Miura K, Yoshida M, Hamaguchi S, Yamakawa M
2. 発表標題 Development of an Interactive COVID-19 Online Training Program for Elderly Care Staff
3. 学会等名 The 25th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 竹下悠子、内海桃絵
2. 発表標題 バーチャルリアリティまたは2次元映像の手指衛生教育映像が視聴者にもたらす体験の違い
3. 学会等名 第10回日本感染管理ネットワーク学術集会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	内藤 知佐子 (Naito Chisako) (10405053)	京都大学・医学研究科・研究員 (14301)	
研究分担者	谷口 初美 (Hatsumi Taniguchi) (30295034)	福岡女学院看護大学・看護学部・教授 (37126)	
研究分担者	任 和子 (Nin Kazuko) (40243084)	京都大学・医学研究科・教授 (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------